

# RDSの制限事項（Oracle Databaseの例）

| RDS for Oracleの制限事項（例）           | 具体的な例  |
|----------------------------------|--|
| バージョンが限定される                      | • 11g (11.2.0.4), 12c (12.1.0.2) をサポート   |
| キャパシティに上限がある                     | • m4.10xl (40vCPU/160GB) or r3.8xl (32vCPU/244GB)<br>• 最大 6TBストレージ、30,000 IOPS |
| OSログインやファイルシステムへのアクセスができない       | • AWS CLIやプロシージャで代替<br>（例：DBMS_FILE_TRANSFER など）                               |
| ALTER SYSTEMやALTER DATABASEが使えない | • ALTER SESSIONや独自プロシージャで代替<br>（例：rdsadmin.rdsadmin_util.disconnect など）        |
| IPアドレスの固定はできない                   | • DNS名でエンドポイントに接続  |
| 一部の機能が使えない                       | • RAC, ASM, DataGuard, RMANなどは使えない   |
| 個別パッチは適用できない                     | • 四半期ごとのPSU(Patch Set Updates)として適用  |

- トレードオフが許容できない場合は、On EC2かオンプレミスで構築